

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	平成28年度第1回高松市創造都市推進審議会
開催日時	平成28年8月6日(土) 13:30～15:00
開催場所	高松市役所 3階 32会議室
議 題	(1) 審議事項 ビジョン各論に対する事業評価について (2) 報告事項 創造都市ネットワーク日本 政策セミナーについて
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	佐々木会長、中副会長、小池委員、佃委員、中西委員、西成委員、橋本委員、三井委員、山地委員、渡邊委員
職 員	土岐創造都市推進局長、佐藤創造都市推進局参事、橋本産業経済部長、長井文化・観光・スポーツ部長、永正市場場長、原岡競輪場長、岡崎農林水産課長、岡中農林水産課長補佐、三宅土地改良課長、一原文化芸術振興課長、加藤文化財課長、高尾スポーツ振興課長、平田産業振興課長補佐、溝渕産業振興課長補佐、塩田産業振興課係長、永木産業振興課主査、
傍聴者	1人 (定員 10人)
担当課及び連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

### 審議経過及び審議結果

#### 1 開会

事務局新規メンバーの紹介、挨拶

#### 【会長】

事務局のメンバーも入れ替わり、ひとつのサイクルが終わったのかなという印象。創造都市を巡る世界の動きをみると、ユネスコの登録も116都市となり、日本も7都市となった。

CCNJの加盟団体も増えており、今秋、高松で政策セミナーを開催するが、全国から75自治体が参加する予定である。

まさにいまリオオリンピックが開幕しているが、リオが終わってすぐから2020年までの4年間は東京五輪の期間。この間に国を挙げて全国で文化プログラムをやっていききたい。東京への集中が問題となっているが、省庁移転などの話もあり、創造都市を巡るいろんな提案が、日本全体の再生へ波及すると考えている。

#### 2 議題

(1) 審議事項「ビジョン各論に対する事業評価について」

事務局から説明

U40人見会長からU40(2期)の活動について報告

## 審議経過及び審議結果

### 【会長】

瀬戸芸などの外の盛り上がりに対して市民のテンションがいまひとつというU40の意見に対してだが、大地の芸術祭は4回目5回目くらいから変わってきた。瀬戸芸は今回が3回目。これから先の変化が大事。また、感覚的なものだけではなく、しっかりとしたデータをとることが大事。

### 【委員】

県の事務局は結構手厚くやっている。島民などは3回目となり当事者意識が高まっていて、関わりも深くなっているが、同時に高齢化も進んでいるため、次世代の育成が課題となっている。フラムさんの評価は、大地の芸術祭よりも香川・高松の方の市民力が高い。大地の芸術祭はどちらかというところ東京の人たちの応援が多いが、瀬戸芸は香川・高松の人が応援してくれている層が厚いと感じているようだ。

### 【委員】

今回は学生も多く参加しており、行ってみたいという学生が増えている。市民の理解が進んでおり、定着してきたかなという印象。庶民のデータを集める必要はある。春は短かったので、夏会期どうなっているか。

### 【委員】

パスポート購入者の地図的なプロットをしてみたら地域別の関心度がわかるかも。

### 【会長】

現代芸術祭が全国に広がっている。CCNJの中に現代芸術祭の部会が立ち上がった。芸術祭を継続していくための人材育成や、開催期間が重なった時にどちらにも人を呼び込む仕掛けなどを考える場としたい。

前回の瀬戸芸のときには、市内への人の呼び込みが課題であるとのことだったが、今回美術館を改修したことで、今回はいい影響が出ているのか。

### 【事務局】

今回はヤノベケンジ展ということで、小豆島での展示もあり、またかなり迫力ある展示となっていて、みなさまから高評価いただいている。

### 【委員】

「生活工芸」の分野で補助金について意見があるが、非常に悩ましい問題だ。

### 【委員】

生活の中にどこまで活かせるかが鍵。伝統工芸について興味を持てるようにしたり、とっかかりを作るための補助金ならいいのではないか。そこから先は業界の自助努力かなと。

### 【会長】

従来型の団体補助ではなく、提案型にしていく。いかに新しいマーケットを捕まえられるか。南部鉄器や西陣とフランス洋装のコラボなど、グローバルに新しい技術をうまくつかんでいる事例がある。ここに対する支援がうまくまわれば。あとはツーリズムとの結びつき。金沢には海外のクラフト都市との結びつきがある。ツーリズムを通して使い手のニーズを知ると、作り手の意識が変わる。

### 【委員】

県産品コンクールで工芸部門が増えている。漆をガラスのように見せてコップにしたものなど。優秀なものに対して県は補助金以外の方法で応援している。

**【委員】**

工芸品は匠の技で、飾ったり、大切にしまったりしてしまいがちだが、日用品として使うことを前提に、幅広く使えるようなものを考えるべき。

**【会長】**

ビジョンでは「生活工芸」という言葉を使っている。大量生産と注文生産の間。金沢は「美術工芸」。工芸未来派がアートのジャンルとして確立された。

**【委員】**

金沢の補助金の入れ方。改修された町家で美大生が作品を見せたり売ったりできる仕組みがあり、「場づくり」に力を入れている。あとは、工芸をやっている人のネットワークで「人づくり」をしていくことも大事。

**【会長】**

創造都市推進局は、全体の活力が生まれるように、縦割りを横串でやろうというので始まった。この資料のように、担当課が回答するだけではなく、事業と事業のスキマに答えがあるから全体を見て答えるべき。次期ビジョンでは、ここを反映させたい。

**【委員】**

「アスパラ大騒ぎ」は個人の熱い想いで動いているイベント。行政や地域を巻き込んで、着実に大きくなっている。このスキルを興味のある人に伝える仕組み、見える化できれば。

**【委員】**

観光分野では、コンベンションビューローのコンペ事業で100万円までの補助が5本ある。

**【委員】**

コンベンションのコンペは観光目線のものなので、創造都市として市民提案型の小型のコンペがあってもいいかも。

**【委員】**

交流空間の中の「街なか居住」については、お店ができるのか？居住スペースができるのか？

**【事務局】**

28年度で補正予算を組んでいるところ。秋ごろには交流サロンと人材育成のためのスペースができる予定。

**【委員】**

トキワ街は昭和40年ごろ建てられた建物が多く、耐震ができていない。小手先よりももっと大きなプランを持った方がよいのでは。

**【委員】**

この事業の目的は、街の中で生き活きと住まい、アトリエと住まい、店と居住をセットで持つということだと思う。街中でしかできないことを考えるべ

き。

**【会長】**

受け止めて事業にしていくためのプロセスがあればいいが。U40で可能性を引き出してもいいかも。

**【委員】**

U40が言ったことすべてが実現できていたら、もう街は変わっている。U40ができることはほんの少しのこと。どうやって1を100にするか。オープンでフラットな組織をU40に求められている。熱い想いを持った人を組織として吸い上げていく仕組みが必要。

**【会長】**

次期ビジョンをどうやって作るかが大事。アスパラ大騒ぎのような事業が増えるようにするにはどうしたらよいか。

**【委員】**

現在、高松市の歴史資料館で「心を豊かにするデザイン」という企画展を開催している。55年前の金子知事の時代のものづくりにスポットを当てた企画で、ひとりの嘱託学芸員さんの想いがかたちになった展示。予算もない中で、自ら動いて、すごくいい企画に仕上がっているが、こういうことがまさに創造的な芽である。

**【委員】**

国・県・市の連携は大事。

**【委員】**

高松のポジショニングをアップさせ、定住人口、交流人口の増加につながることを目指しているが、文化・芸術に寄りすぎているという印象をもつ。例えば、スポーツなら野球場やサッカー場の場所の問題など。

**【会長】**

2020年に向けて、スポーツと文化プログラムをセットで考え、東京だけに集中しないよう考えているところ。次期ビジョンはそこを睨んだビジョンになるであろう。

(2) 報告事項「創造都市ネットワーク日本 政策セミナーについて」

事務局から説明

**【会長】**

事例発表をする浜松市、神戸市はともにユネスコで音楽、デザインの分野の登録をしている。またメビック扇町は2003年大阪に創造産業のクラスターを作ろうということでできたもので、海外からも注目されている。

3 閉会